



## 筑紫氏とはどんな武将？

福岡県筑紫野市周辺を本貫地とする一族で、九州の名門守護大名・少弐氏の一門とされる、有力な戦国武将（国人領主）です。

明応6年（1497）頃、筑紫満門の代に勝尾城に入り、以後、筑紫広門にいたる約90年間、肥前・筑前・筑後3カ国の国境地帯に勢力を振るいました。

天正14年（1586）7月、筑紫広門の守る勝尾城は、九州制覇を目指す島津氏との6日間に及ぶ攻防戦の末に落城しますが、翌月には城を奪還し、広門は豊臣秀吉の九州平定の軍に加わります。この功で、筑後国上妻郡（福岡県八女地方）1万8000石の大名となりました。

その後、文禄・慶長の役などに陣出しますが、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いでは西軍で参戦したため改易されました。

のちに広門の子孫は徳川幕府の知行3000石の旗本となり、筑紫家は存続します。

### 勝尾城筑紫氏遺跡関係年表

年号(西暦)	主な事項	※参考事項
応永30年(1423)	九州探題渋川義俊、勝尾城に入る。 ※初めて勝尾城の名が登場する。	1467 応仁の乱
明応6年頃(1497~98)	筑紫満門が勝尾城に入城したとされる。 ※約90年間にわたり筑紫氏の居城となる。	1543 鉄砲伝来
弘治3年(1557)	「筑紫宅所(勝尾城?)」が大友勢の戸次鑑連に攻められる。	1560 桶狭間の戦い
永禄3年(1560)	筑紫広門(鎮恒)が家督を継ぐ。	
永禄11年(1568)	龍造寺隆信、毛利元就に対して「筑紫在所(勝尾城?)」攻めの許可を求め、元就は筑紫氏の居城が堅固であること、大友軍が駐屯していることを理由に退ける。	1582 本能寺の変 1586 秀吉の九州征討
天正14年(1586)	島津氏の軍勢が高良山より攻め入る。勝尾城は落城し、広門は大善寺に幽閉されるが、のち脱出し勝尾城を奪還する。 ※筑紫春門と川上忠堅(左京)の一騎討ち(伝承)	
天正15年(1587)	広門、豊臣秀吉の島津攻めに加わる。 ※秀吉の九州国分けによって、筑後の上妻郡1万8000石が与えられ、勝尾城を離れる。  豊臣秀吉直書に「前筑紫居候つる城…(略)」とある。 ※これが勝尾城関係記述の最後とされる。	1592~98 朝鮮出兵 1600 関ヶ原の戦い
慶長5年(1600)	関ヶ原の戦いで西軍に加わり敗北。所領没収。広門は肥後の加藤家の扶助を受ける。	

◆用語解説◆  
 曲輪(くるわ): 軍事・政治的な意図をもって作られた平坦地。  
 土塁(どるい): 防御のための土手。  
 虎口(こぐち): 城の出入り口。  
 主郭(しゅかく): 城の中核となる曲輪。本丸ともいう。  
 堀切(ほりきり): 尾根を遮断した空堀。  
 畝状空堀(うねじょうたてぼり): 斜面に連続して作られた堀。

## 勝尾城に咲く「サクラツツジ」



城山(勝尾城)の中腹以上には、九州南部や四国に分布する亜熱帯性のサクラツツジが生息しています。勝尾城周辺に隔離分布し、その北限の地になっています。

五十嵐賢氏撮影

○花のみどころ  
4月下旬~5月上旬頃



とつとちゃん戦国バージョン(鳥栖市イメージキャラクター)



交通のご案内  
 ◎遺跡入り口まで  
 JR鳥栖駅より西鉄バス  
 河内線 鳥栖駅発~東橋下車(約20分)  
 ◎東橋バス停より  
 筑紫氏館跡 徒歩約40分(車で約5分)  
 勝尾城跡 筑紫氏館跡から登山道で徒歩約50分  
 葛籠城跡 徒歩約10分



勝尾城筑紫氏遺跡



勝尾城筑紫氏遺跡空撮動画



鳥栖観光コンベンション協会 勝尾城YouTube

### 問い合わせ先

〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地  
鳥栖市教育委員会 生涯学習課文化財係  
Tel. 0942 (85) 3695



# 国史跡

# 勝尾城筑紫氏遺跡

## 戦国城下町が体感できる遺跡

## 鳥栖市教育委員会

勝尾城主郭(伝物見岩)より鳥栖市街地を見る



## かつのおじょうちしいせき 勝尾城筑紫氏遺跡とは？

鳥栖市の北西部に所在する城山(標高約500m)の山頂と、その南麓の谷筋を中心に広がる、戦国時代後期(約400~500年前)の遺跡です。北部九州の有力な国人領主だった筑紫氏が本拠としました。遺跡の規模は東西約2.5km、南北約2kmに及びます。

天正15年(1587)に筑紫氏が転封されたことで廃城となりましたが、本城の勝尾城及び6つの支城・館・家臣団屋敷・町屋、巨大な惣構や長大な空堀・土塁などの遺構が良好な状態で残っています。

戦国時代の城館・城下町の様子や当時の人々の生活を考えるうえで重要な遺跡であることから、約230ヘクタールが国の史跡に指定されています。



### 主要な遺構

**勝尾城跡(かつのおじょうあと)**  
 筑紫氏の本城で、谷を内に取り込み、鳥が翼を上げたように曲輪が配置され、土塁・石垣・空堀などが良好な状態で残っています。

**筑紫氏館跡(ちくししやかたあと)**  
 勝尾城の南麓にある筑紫氏の領地支配の中心であった場所で、曲輪・石垣・枅形虎口が確認され、陶磁器類が出土しています。

**鬼ヶ城跡(おにがじょうあと)**  
 勝尾城の南西部、標高約350mに築かれた城で、曲輪・土塁が良好な状態で残っています。

**高取城跡(たかとりじょうあと)**  
 標高約290mに築かれた城で、筑紫春門の居城とされています。主郭を中心に連続する曲輪、堀切、空堀が残っています。

**若山砦跡(わかやまとりであと)**  
 標高約250mに築かれた城で、曲輪、堀切などが残っています。勝尾城が攻められた際、最後まで落城しなかったと伝えられています。

**葛籠城跡(つづらじょうあと)**  
 戦いになれば勝尾城の防備の最前線となる城です。長大な二重の堀と土塁は圧巻です。

**勝尾城東出城跡(かつのおじょうひがしでじょうあと)**  
 勝尾城から東に派生する尾根上の標高約320mに築かれた城で、古文書等の記録にはみられない城です。

**鏡城跡(かがみじょうあと)**  
 標高約170m、主郭を中心に曲輪、堀切、畝状空堀などが残っています。

**新町町屋跡(しんまちまちやあと)**  
 葛籠城と惣構との間に位置し、間口約4m、奥行き約12mの短冊形の掘立柱建物が多数、確認されています。

**惣構跡(そうがまえあと)**  
 城下の最も外側の堀と土塁で、当時は長さ約400m以上で、幅約10m、深さ約5mのV字形。土塁は、石張りが施されています。

**家臣団屋敷跡(かしんだんやしきあと)**  
 遺跡内では現在までに9カ所の屋敷跡が確認されています。

